

第1回 大阪市 ICT 戦略本部会議 会議要旨

1 日 時 平成 28 年 5 月 24 日（火） 13：30～14:30

2 場 所 大阪市役所本庁舎 5 階特別会議室

3 主な出席者

<大阪市 ICT 戦略本部 関係本部員>

吉村市長、鍵田副市長、田畑 ICT 戦略室長、金谷東淀川区長、玉置浪速区長、黒住政策企画室長、東危機管理監、井上経済戦略局長、谷川市民局長、川田都市計画局長、小川教育委員会事務局総務部長、羽東市政改革室長、中村人事室長、上田総務局長、稲森財政局長

<事務局（ICT 戦略室）>

宮腰 ICT 戦略担当部長、尾植 ICT 統括担当部長、矢野 ICT 戦略担当課長、西崎 ICT 統括担当課長、粟屋 ICT 適正化担当課長、中道 ICT 戦略担当課長代理、澄川 ICT 統括担当課長代理、樽谷 ICT 適正化担当課長代理、田中担当係長 他

4 会議要旨

（1）「大阪市 ICT 戦略本部会議」の推進体制について

ICT 戦略室長から、大阪市 ICT 戦略の推進に関する規程に基づく「大阪市 ICT 戦略本部会議」の推進体制について説明を行い、内容の確認を行った。

（2）大阪市 ICT 戦略（基本方針）について

ICT 戦略室長から、大阪市 ICT 戦略の基本方針について、ICT で出来ることは ICT を活用して行う、民間でできることは民間でやる、また海外事例や政令指定都市以外の自治体も含め模倣できることは模倣するといった基本方針を説明し、内容の確認を行った。

（3）市民サービス拡充について

ICT 戦略室長から、行政でしかできないような行政独自のサービス、民間の力を借りて進めていく Civic Tech、民間のさまざまなサービスについて説明し、内容の確認を行った。

（4）オープンデータについて

ICT 戦略室長から、オープンデータは機械が読めることと二次利用可能であることといったオープンデータに関して、またオープンデータにかかる大阪市の方針を説明し、内容の確認を行った。

（5）庁内 ICT 力強化について

ICT 戦略室長から、ICT 戦略室は、相談窓口ではなく、ICT を活用した働き方や施策に積極的に関わっていき、各区・局と連携を図り、積極的に ICT 戦略室を「使って」欲

しいといったことを説明し、内容の確認を行った。

(6) 関係本部員からの意見(抄)は次のとおり。

- ・危機管理室：災害時において、タブレットを使って被災者支援システムを活用するために、平時から常備して実際にいざというときにすぐに使えるように訓練をするようにしていくのが、ベストであると思う。
- ・市政改革室：BPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)において、市民サービスを向上するためのソリューションとして ICT を活用したいと考えている。
- ・東淀川区：ICT を活用した BPR について、職員の事務軽減、人と業務とのあり方、要因と業務のあり方、要因と業務のあり方に関してこれまでと異なる視点での改革ができるのではないかと考えている。
- ・教育委員会事務局：タブレットを全校 40 台ずつ導入が済んでおり、今年度からその利用が始まっているが、まだ導入したばかりで改善の余地もあるので、ICT 戦略室と協力しながら進めていきたい。
- ・都市計画局：大学とビッグデータの連携をしていこうとしており、人の流動と属性を兼ね合わせたデータは、企業も注目すると思う。

(7) ICT 戦略室からの依頼について

ICT 戦略室長から、次の内容の依頼をした。

- ・ペーパーレス化を進めるために各所属は、1 台プロジェクターを用意して欲しい。
- ・ペーパーレス化を進めていくための資料のあり方として、これまでの仕事に合わせた資料作りにとらわれるのではなく、例えばパワーポイントを利用した資料作りを検討して欲しい。
- ・各所属においてトップダウンで号令をかけてペーパーレス化を進めて欲しい。
- ・ICT ツールを徹底して活用していくために、まずは、できることからということで Outlook のスケジューラの徹底活用をして欲しい。

(8) 市長の意見の概要は次のとおり。

- ・大阪市の改革で一番進んでいないのが ICT の改革だと思っている。
- ・やらなくてもいい、難しそうだからやめておこうという風潮があるかもしれないが、これは間違いであり、必ず進めていかなければならない。
- ・ICT の効果は様々あり、まずいえることは、経費を削減しながら行政サービスの質を高めることができるのは ICT である。
- ・私たちの仕事はすべて税で成り立っているのであるから、コスト削減を徹底して、しかもサービスの質を向上させることができるのであれば、やらない手はない。
- ・ICT の場合は、民間でも発達しており、いろんなことが確立しているので、積極的にあらゆるものを模倣していけば、意識さえ改革すれば、必ず大阪市のなかでも有効なものになる。
- ・大阪市の現状は、ほとんど ICT を活用しておらず、まずできることからということで、オープンデータの活用、イベント情報についてやってみて、成功体験をすれば、次に

つながる。

- ・内部的にはスケジュールの活用を手始めにすすめていってほしい
- ・行政のなかで「これは ICT でできるのではないか、効率があがるのではないか、それで、そこに配置していた人の仕事も減る」、そういうことを洗い出して積極的にやってほしい。
- ・インフラ面では、学校 ICT は重視して進めており、インフラ面は整えたが、どう使っていくかといった次のステージに来ている。
- ・オープンデータ、ビッグデータの活用も取組みが徐々に進んでいるが、それぞれの部局で活用できるものはないのか、見極めてほしい。
- ・少ないコストで最大の行政目的、政策目的を達成することにもつながるので、そういった目で、攻めの ICT 部分は進めてほしい。
- ・今日はキックオフということで、それぞれの部局のトップメッセージのなかで ICT を積極的に進めていって欲しい。例えばペーパーレス化から始めていくなど、それぞれの部局のなかで温度差はあるかもしれないが、まずは取り組んでみて、一度成功すれば、蓄積されるし、そこで難しいなとなれば ICT 戦略室とも協力しながら、深掘りをしていってほしい。
- ・市長も役所の人間もいつかは変わるが、このノウハウは行政財産として残っていくので、将来の後輩のためにも ICT を蓄積することをしっかりとやっていってほしい。

5 会議資料

・第 1 回戦略本部会議資料

- | | | | |
|---|----------|--------------------------|---|
| 〔 | 資料 1 | 「大阪市 ICT 戦略の推進に関する規程（抄）」 | 〕 |
| | 資料 2 - 2 | 「大阪市 ICT 戦略（案）概要版」 | |
| | 資料 2 - 2 | 資料 | |